

AI分析でわかったトップ5%社員の習慣

越川 慎司(著)

単行本：254 ページ

出版：ディスカヴァー・トゥエンティワン

価格：1,650 円 (税込)

はじめに

本書は1万8000人のサラリーマンを対象にした調査をもとに、トップ5%の社員が持つ共通の習慣や考え方をまとめたものです。これらの習慣や考え方を学び、日常の行動に取り入れてみましょう。

トップ5%社員の5原則

605社のビジネスパーソン1万8000人を対象に、定点カメラ・ICレコーダー・GPSでAI分析して、その特徴を導き出した結果、トップ5%の社員には5つの原則があると分かりました。

1. 「5%社員」の98%が「目的」のことだけを考える
2. 「5%社員」の87%が「弱み」を見せる
3. 「5%社員」の85%が「挑戦」を「実験」と捉える
4. 「5%社員」の73%が「意識変革」はしない
5. 「5%社員」の68%が常にギャップから考える

プロセスよりも結果を重要視する

調査によりトップ5%社員は、プロセスよりも結果を重要視することが分かっています。たとえば進めていたプロジェクトが失敗したとき、これまでのプロセスを思い出し、それで満足せずに「確かにみんなで頑張ったし、やれることはやったが、どこかに失敗の原因があったのだ」と考えます。

そして「結果」「目標」「達成する」「成し遂げる」という言葉を、95%の一般社員よりも3倍以上多く使っているという調査結果も出ています。

弱みを見せる

トップ5%社員は初めての人と関係を構築するときに、まずは雑談から入り、相手との距離感を縮め、実際に関係を構築していく段階では、自分の弱みをさらけ出すようにしていると筆者はいます。

プライドを持っていると、人は自分の弱みをさらけ出すことに抵抗を感じるようになり、実際に5%社員よりも、残りの95%の社員の方が、弱みを見せることに抵抗を感じると答える割合が多いという結果があります。

つまり、優秀な社員を目指すのならば、自分の弱みを相手に見せることで、相手と親密な関係を築いていくということを意識するのが望ましいといえます。

トップ5%社員は意識変革しない

この見出しを読むと違和感があるかもしれません。95%の社員は「意識が変わらないと行動は変わらない」と考えているのに対して、トップ5%は何かを改善したときは行動を変えることを重視していると解説されています。これは、すぐに小さくてもいいから行動を変える方が結果的に意識の変化が早く現れることを意味しています。

その他の調査結果

筆者が実施した調査では他にもたくさんの興味深い結果が出ています。

- 調査対象となるビジネスマンたちに万歩計をつけてみたところトップ5%社員の方が明らかに歩数が多い
- トップ5%社員のうち、そのうち半分以上の人たちが、約8割もの時間を自分の席以外で過ごしている
- トップ5%社員は時間に対する意識も高く、時計を見る時間が一般社員よりも1.7倍多い
- 5%社員は95%社員より笑顔の時間が1.4倍長い

本書は調査結果に基づいた「仕事ができるトップ5%社員」の思考と行動についても解説されており、マネージャー教育や働き方を見直したいビジネスマンにおすすめしたい一冊です。